

# ランドスケープのちから

## 01. シークエンス

株式会社ランドスケープデザイン

植野紉 / 吉田謙一

### シークエンスの現在性

シークエンスとは、一般的に「連続」「順序」「数列」「配列」「反復」「制御」を意味しますが、建築デザインでは「移動とともに変化する景色、徐々に変化するデザイン」となり、空間の配列や順序、そのつながりを示す言葉となります。ランドスケープでも同様で、シークエンスといえば直ちに池泉回遊式庭園が思い浮かびます。池を中心に自然の景色を凝縮してつくる庭園の手法で、桂離宮はシークエンスの技巧を極めた庭園のひとつとして、広く知られるところです。この時ランドスケープのシークエンスとは、園路に沿って並べられた屋外空間の断片を一つの連続として理解することではありません。シークエンスの本領は、ランドスケープを巡る空間や時間の中の出来事を、事物連鎖として紡ぎ合わせるちからにあると考えます。シークエンスには順序や時間が介在するため、立ち現れる現象や経験の紡ぎ方により、様々な「意味」が生まれます。シークエンスのちからとは、ランドスケープを体験する人々に自然の複雑な様相や美しさを「テキスト」として伝えることにあると言えます。

シークエンスのもう一つの特徴は、そのまとまりに終端がなく拡張していくオープンエンドな構造にあります。完結しなくてもよいという構造は、いくつもの変更・継ぎ足しや・結び直しをいつでも許容し、多義的な様相をつくります。ランドスケープとして認識される場が、その物理的な空間の規模に関わらず様々なスケールを自由に行き来し、長い時間軸を取り込むことができるのは、この構造に拠るものと考えます。伝統的な庭園に見られるこうしたシークエンスは、決して過去のものではありません。その手法は極めて現代的であり、私たちはランドスケープを構想する際にはシークエンスの可能性を試みます。『ワテラス』は、都心部での居住人口減少による地域の危機感からスタートした再開発事業です。駿河台台地縁辺部の7mの高低差がその地形的な特徴であり、江戸文化としての歴史的蓄積もある地域です。神田祭での神輿巡行・お仮屋の場、エリアマネジメントによるイベントの場となることが期待されました。私たちは一つの全体を普遍的なマスタープランをつくるのではなく、その場を訪れる人々の経験の連続によって街の全体像



台地縁辺部 スロープと芝生広場



### 神田淡路町 ワテラス

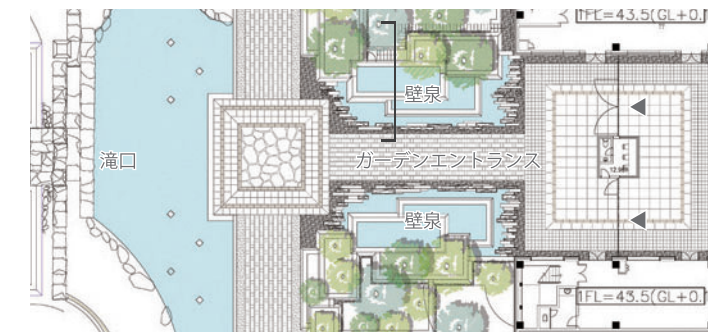
所在地：東京都千代田区 / 敷地面積：10,416.85㎡  
建築設計：佐藤総合計画 / 写真：Forward Stroke inc.

少子高齢化・居住人口減少が進む都心部での街区活性化のための再開発プロジェクト。駿河台台地の高低差を活かしたシークエンスの展開、公民用地の一体的整備、エリアマネジメントがテーマ。

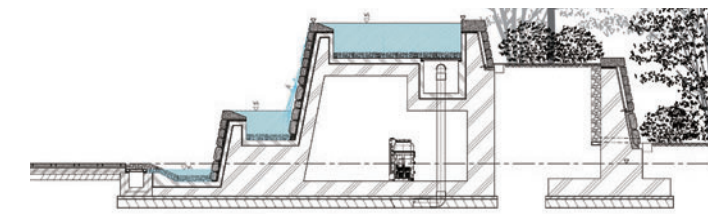
環境問題やSDGsなど世界的課題に対し、建築界では解決への道を探る動きが活発化しています。一方、常に広域的視点を持ち、主に自然や植物を扱って景観や環境を創造してきたランドスケープ界では、それらに対応する優れた技術やナレッジを数多く蓄積し、思考や志をより高めてきました。こうした『ランドスケープのちから』を、毎回異なる切り口で具体的実践例によって紹介しようというのが、今回の連載の意図です。第一回テーマは「シークエンス」。歩きながら様々に変化してゆく風景を、設計者としていかに美しく紡いで

ゆけるか、ということです。真っ先に思いつくのは桂離宮でしょう。1933年B.タウトにより再発見された美しさの源泉が、「建築」のプロポーショナルだけではなく、見え隠れする景色や動植物の動きも含めた「シークエンス」によるということは、本人の日記でも語られています。地形や地歴を丁寧に読み取り、周りの景色も取り込み、さらには自然植生や生物の住処も考え合わせて、この場所ならではの「シークエンス」をランドスケープアーキテクトは創造します。その作法と意思を、具体的作品で見てみることにしましょう。(植野紉)

をつくりたいと考えました。さまざまなステークホルダーが関わる『ワテラス』は、「回遊」というシークエンスの中で色々な意味や体験を得ることにより、課題であった地域活性化にランドスケープが寄与しているものと思っています。『春河里プロジェクト』は、中国瀋陽での住宅計画です。中国では投資目的の集合住宅が多い中、その場を気に入り暮らす人たちも大勢います。商品として消費されてしまう風景ではなく、日常生活での豊かさを感じる場をつくるため、池泉回遊式庭園をモチーフとしたランドスケープを提案しています。遼河によってつくられた平坦地に幾重にも巡らせたシークエンスによって、自然とともにある生活の豊かさを感じられる場づくりを目指しました。シークエンスの手法は、現在注目される新たな「パブリックスペース」においても発揮されると考えます。人々や様々な社会関係を広く包括するパブリックスペースは、コモンとして共感できるスペースの創造、社会の中で満たされていると感じられる場所の創出、持続可能な管理の手法など、多義的な意味をシークエンスによってつなぎ合わせるができるものと考えます。(吉田謙一)



ガーデンエントランス 平面図



ガーデンエントランス 壁泉 断面図



ガーデンエントランス 滝口



### 瀋陽万科 春河里

所在地：中国瀋陽市 / 敷地面積：71,330㎡  
建築設計：KAJIMA DESIGN / 写真：Terrence Zhang  
中建設計

中国最大手の住宅デベロッパーである万科による、瀋陽都心部の集合住宅プロジェクト。「東洋」の自然観をテーマとし、様々な回遊から生まれるシークエンスの手法でランドスケープによる場づくりがおこなわれている。